

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530966

研究課題名(和文)ライティングスキルズ育成を軸としたキャリア教育の質保証に関する国際連携研究

研究課題名(英文)Global Cooperative Study on Quality Assurance of Career Education through Writing Development

研究代表者

井下 理 (Inoshita, Osamu)

慶應義塾大学・総合政策学部・名誉教授

研究者番号：30129069

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、グローバル化の進展や産業構造の変化に対して、大学教育が社会の要請に対応していない問題を意識し、国際社会に向け、日本の大学はどのような人材をどのように育成していけばよいのか、学士課程教育再編の一方策として、キャリア教育の質保証に、ライティング教育がいかに資するかを検討した。先進的取り組みを行っているカナダ・豪州の大学を訪問調査し、その成果を国内外の学会で発表した。学生の書いた記録はキャリア教育のエビデンスとなるだけでなく、書く訓練は学生の思考を鍛えることができる。これら一連の成果をもとにテキストを開発出版した。

研究成果の概要(英文)：Japan has entered the universalization phase of higher education. The decline of university students' writing and thinking abilities has become a big issue. In order to improve students' abilities, faculty need to design the curriculum for not only basic study skills but the disciplines related to comprehensive sequential learning process throughout undergraduate coursework. For the purpose of enforcement relevance to the need from society in globalization today, quality assurance of university educational reform requires systematic development of writing education and teaching and learning skills. Visiting advanced campuses of the universities in Canada and Australia brought the stimulating and informative different perspectives and systems. Based on the survey findings, the textbook has been published from the University Press of Keio and revised. The title is "Developing Critical Thinking to Write Papers".

研究分野：高等教育

キーワード：グローバル人材 人材育成 カリヤ教育 大学教育の質保証 ライティング教育 初年次教育 FD・SD ラーニング・コモンズ

1. 研究開始当初の背景

本研究の前段階として位置づけられる研究、平成 21～23 年度 基盤研究(c)「FD活動の一環としてのライティングセンターの機能開発に関する研究」では、ライティング教育を基点にした学習支援とFD活動の展開に焦点を当て、学士課程教育における「書く力」の共通基盤を形成する諸要因を国内外の調査によって明らかにしてきた。

本研究では、焦点をキャリア教育に定め、その質保証という観点から、ライティング教育が持つ多面的側面を明らかにするため、国際的連携を強化し、継続研究することを企図した。

2. 研究の目的

そこで、本研究では、キャリア教育を全学的な教育活動として位置づけ、組織的・継続的・計画的に実践していく手立てとして、ライティング教育のあり方に着目した。変化の激しい現代に生き抜いていくには、イベント的なキャリアガイダンスや、卒業期の就職斡旋活動だけでなく、学士課程カリキュラム全般に渡り、キャリア教育を位置づけ、自己の生き方や、職業生活における自己実現に必要な基本的能力を育成することが必須となる。

エントリーシートの書き方に代表されるような、産業界の要請に添えていくための書き方の訓練ではなく、学士課程教育の成果が活かされるような、大学教育とキャリア教育が統合された形での質保証をいかにして確立するかを探求することを目的とした。

3. 研究の方法

キャリア教育に焦点を当て、ライティング教育の課題について、大学教育学会などで共通の関心を持つ研究者と交流する機会を通して議論を重ねた。

ライティング教育と大学教育の質保証

を軸に、海外(カナダ、オーストラリア)の大学における先進的事例について資料の収集と分析を行った。とりわけ、教授学習法や大学組織のあり方、および学習環境や仕組み、様々な考え方を学び合う場としてラーニングコモンズの再構築、指導者育成のためのFD・SDも視野に入れ、分析した。

さらに、日常的な教育実践を通じて、授業の場で応用的に研究を行った。

一連の研究成果をテキストとして開発した。

4. 研究成果

(1)平成 24 年度(1 年目)の成果

大学教育学会ラウンドテーブル

グローバル化の進展や産業構造の変化など、大学教育が社会の要請に対応できていない問題を背景とし、学士課程教育再編の一方策として、キャリア教育の質保証に、ライティング教育がいかに資するかを明らかにすることを目的とした。これまでのキャリア教育では、エントリーシートなど定型のスキル訓練や、外部講師による授業、イベント的なキャリアガイダンス、卒業期の就職斡旋活動が中心であり、学士課程教育での成果が反映されているとは言い難い。重要なことは、単に大学で学んだ専門知識や、就職に関する情報を集積していくことではなく、書くという行為を通して、学んだ知識を、自分の生き方に照らしてどう意味づけしようとしているのか、知識を再構成し、深く問うていくこと、自律的に考える力を身につけていくことにある。基礎、教養、専門教育と多層的に内装されてこそ、多様な場面に対応可能な質の高いライティングスキルズを学ぶことができると考える。そこで、これまでのライティング教育に関する一連の研究成果と実践を基軸とし、就活力や職業技術訓練に特化したキャリア教育の問題点を析出するため、多様な事例をもとに、学士課程教育の本質に迫る議

論をおこなった。

変化に対応する力」とは自分の中でどう学習したことを再構成・再構造化するか」という点が最も重要であること、異なる文脈での「転移」が、ライティングにおけるより説得的な文章構成力を作ること、その他の論点が指摘された。

海外調査

カナダ、バンクーバーのサイモン・フレーザー大学およびブリティッシュ・コロンビア大学を訪問した。

(2)平成 25 年度(2 年目)の成果

大学教育学会大会ラウンドテーブル

グローバルな人材育成のシステム構築は、多くの国々で大学教育の重要なテーマの1つである。大学卒業後に求められる資質や技能を学士課程においてどのように習得させるかは、歴史・文化・社会構造の違いを超え、どの国でも今後の大学教育の質保証のための喫緊の課題となる。とりわけ、大学卒業後の職業生活や生涯生活設計に結実する教育学習の成果を問われる側面では、キャリア教育が注目を集める。

教育の質と学修成果の保証に関して、国際的な比較と協力・連携の枠組みを視野に入れつつ、理念、政策、組織開発、カリキュラム、教授法の各レベルで検討する必要がある。キャリア教育、ライティング教育はどちらも学内でのセンター開設や運営など組織・制度開発と密接に関連し、具体的教育実践では教授・学習の過程と方法が課題となる。思考を鍛えるライティング教育とその具体的指導法は、その際の重要かつ具体的な方策の1つとなるため、専門分野や学士課程のみならず大学院レベルでも広く関心を集め、大学教育改革の基軸を構成している。そこで、キャリア教育のあり方を教育の質の保証という観点から、学士課程教育における位置づけを問いつつ、具体的展開の方策として「ライティ

ング教育」に着目し、海外の事例も含め、広く検討した。

米国カリフォルニア州の3つの大学(カリフォルニア大学ロサンゼルス校・南カリフォルニア大学・カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校)の事例の報告に加えて、24年9月に実施したサイモン・フレーザー大学、ブリティッシュ・コロンビア大学での調査結果が報告された。

サイモン・フレーザー大学では、3学期制を活用した、きめの細かいインターンシップ指導が見られた。学生は、1つの学期全体を通して、大学と綿密に連携がとられた研修先企業で、インターンシップを体験する。3年生の夏休み期間だけ、それも1週間程度のインターンシップを経験している日本とはまったく違うキャリア教育が見られた。

また、広義のキャリア教育の要素を埋め込んだライティング指導のあり方とカリキュラム開発についての報告があった。

ライティング指導について議論するための話題提供として、キャリアについて考えさせる課題を取り入れたライティングのテキスト開発の経緯と、授業での活用法を紹介することを目的として、特に、1年次から4年次、卒業後までを俯瞰させる授業設計、考え抜く経験をさせるライティングの課題内容やカリキュラムの開発、ライティングセンターの組織での位置づけについて検討がおこなわれた。

現状では、キャリア教育という語の多義性が、この問題への焦点化の妨げとなっていることが指摘された。教育の質保証が制度的なマクロな観点での枠組みに議論が傾斜し、ミクロな観点からの授業や学習の質という視点を看過する傾向が浮き彫りにされた。社会経済状況の時代的差異や社会文化的・構造的な多様性から、同じキャリア教育という言葉を用いても、その意味する内実において国別の文脈が意味を形成しているため、一律の比較

が困難であることも明らかとされた。

一方で、学士課程教育の質保証というテーマは、国際的な比較や拡大すると予想される国際間の教育の相互交流を視野に入れた、より広い枠組み構築を政策目標としている点を内包している。またそれと同時に、大学教育の日々の教育実践の現場における、ミクロな観点での授業の質や学習成果の質を保証するための具体的方策をどう考えるのか、という観点をも内包している。この両者を統合的に考察する起点の一つとして、「キャリア教育」及びそこにおける「汎用技能としてのライティングスキルズ」をどう習得させるかという教育実践の具体的なあり方についても、議論が行われた。

海外調査

平成 25 年 3 月オーストラリア、メルボルンのロイヤル・メルボルン工科大学、メルボルン大学、モナッシュ大学、ビクトリア大学、シドニーのシドニー大学を訪問調査した。

(3)平成 26 年度(3 年目)の成果

大学教育学会のラウンドテーブルでは、過去6年間の科研「FD活動の一環としてのライティングセンターの機能開発に関する研究」「ライティングスキルズ育成を軸としたキャリア教育の質保証に関する国際連携研究」の成果を発表し、議論を重ねてきた。その主たる目標は、教養教育も含めた学士課程教育の充実にある。

そこで、これまでの総括と位置づけ、大学でのライティングに必須の批判的思考に着目し、入学前教育も含め、学士課程カリキュラムと連動したライティング教育のあり方について検討した。事例として、書く力と批判的思考の育成、平易な言葉で科学を語る力、読書レポートで培う書く力、専門ゼミでの書く力の報告があった。指定討論では、学生の言語能力の現状を踏まえ、批判的思考をどう捉え、教養教育に位置づけていくかという俯

瞰的な視点が示され、さらに参加者からも多くの示唆に富む発言を得た。

海外調査

平成 26 年 9 月ラーニングコモンズを主にブリティッシュ・コロンビア大学およびサイモン・フレージャー大学を訪問した。平成 27 年 2 月にもカナダ、バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学のラーニングコモンズ及びキャリアセンターを訪問した。

今後は、学生の考える力を多面的に捉え、キャリア教育とも絡めて内容を深め、教養教育改革の抽象論ではなく、ライティング教育実践に着目した現実的かつ具体的な提案をしていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計 7 件)

井下 理：FD と SD の統合による組織的職能開発、大学職員論集、査読無、3 巻、7-18,2015.3

井下 千以子：高大接続を目指した入学前教育の現状と課題、初年次教育学会誌、査読無、7 巻、85-93,2015.5

井下 千以子：大学での学びとキャリア教育をつなぐ一生涯発達心理学の視座から、初年次教育学会誌、査読無、5 巻、18-27,2013

井下 千以子：グローバルな人材育成へ向けたキャリア教育の質保証とライティング指導、大学教育学会誌、査読無、35 巻、24-27,2013

井下 理：学習環境としてのラーニングコモンズ、『IDE 現代の高等教育』査読有、556 号、4-10、2013

井下 理："これからの大学図書館員に期待される役割" NPO 法人大学図書館支援機構ニュースレター No.12. 1-1, 査読無、2013

井下 理："協働学習空間としての大学図書館の変革" Media Net, 査読無、No.19. 40-42, 2012

〔学会発表〕 (計 19 件)

井下 千以子：学生の書く力考える力を育む、新潟県立大学 FD 研修会(招待講演)(新潟市、県立新潟大学)2014.11.18

井下 千以子：大学を取り巻く状況と大学図書館の役割:Writing Across the curriculum とCritical thinking Across the curriculum の観点から、国立情報学研究所学術基盤推進部主催:平成 26 年度大学図書館

員短期研修(招待講演)(東京、東京大学)2014.11.12

井下 千以子: 初年次教育の焦点: 思考を鍛えるアカデミック・ライティング、フェリス女学院大学FD研修会(招待講演)(横浜市、フェリス女学院大学)2014.10.22

井下 千以子: 大学を取り巻く状況と大学図書館の役割: Writing Across the curriculum とCritical thinking Across the curriculum の観点から、国立情報学研究所学術基盤推進部主催: 平成26年度大学図書館員短期研修(招待講演)(京都市、京都大学)2014.10.8

井下 千以子: アカデミック・ライティングを指導するー現状の分析と指導法の提案、国際連携を活用した大学教育力支援拠点(招待講演)、東北大学高度教養教育・学生支援機構専門性開発プログラム(仙台、東北大学)2014.9.1

井下 理・井下 千以子・小笠原正明・江本理恵・柴原 宜幸・田部井 潤: 教養教育における批判的思考の育成の検討 ライティング指導の観点から、大学教育学会大会(名古屋、名古屋大学)2014.5.31

田部井 潤: 初年次におけるキャリア教育教育導入の試み、初年次教育学会第6回大会、(金沢、金沢工業大学)2013.9.13

柴原 宜幸: ゼミでのライティング指導の観点から、教育心理学会第55回大会(東京、法政大学)2013.8.19

井下 千以子: 心理学教育はジェネリックスキル修得にいかんにかに資するか、教育心理学会第55回大会(東京、法政大学)2013.8.19

井下 理: グループ学習での「書くこと」の意義と効果、教育心理学会第55回大会(東京、法政大学)2013.8.19

Chiiko Inoshita; Teaching "Identity Status" and its effect on 'Career Design' of university students, 24th International Conference of First Year Experience (Cona, Hawaii, U.S.A) 2013.6.17-20

井下 理・田部井 潤・山地弘起・井下千以子: "グローバルな人材育成に向けたキャリア教育の質保証とライティング指導力" 大学教育学会 第35回大会 ラウンドテーブル発表. 東北大学 (仙台) 2013.6.1

井下 理: "シラバスと授業設計" 大学セミナーハウス 第2回新任教員研修セミナー(招待講演). 八王子セミナーハウス(東京)2012.9.4

井下 千以子: "初年次からのキャリア教育 - アイデンティティステータスを用いた分析の効果" 初年次教育学会 第5回大会発表. 文京学院大学 (東京) 2012.9.6

井下 理: "学ぶ人による・学びたい人どうしの学習コミュニティの形成" PDP セミナー(招待講演). 東北大学 (仙台) 2012.8.22

井下 理: "大学が何かを始めるとき"

九州大学第1回教育改革研究会(招待講演). 九州大学(福岡)2012.6.15

田部井 潤: "営利大学が提起する高等教育の諸問題 日米の比較という視点から" 高等教育学会大会第15回大会発表. 東京大学 (東京) 2012.6.2

井下 千以子・住吉廣行・田部井潤・松本美奈: "キャリア教育の質保証に向けたライティングスキルズ育成を考える(1)" 大学教育学会 第34回大会発表. 北海道大学(札幌)2012.5.26

井下 理: "「学習させる大学」における学生の正課外活動" 名古屋大学高等教育研究センター 第106回招聘セミナー(招待講演). 名古屋大学 (名古屋) 2012.4.27

〔図書〕 (計4件)

井下 千以子: 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』(第2版)慶應義塾大学出版会. 156. 2014

井下 千以子: 「思考し表現する力を育む学士課程カリキュラムの構築 Writing Across the Curriculum を目指して」関西地区FD連絡協議会『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』ミネルヴァ書房, pp.10-32. 2013

井下 千以子: 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会. 156, 2013

井下 千以子: 『学び入門 レポートの書き方からキャリアデザインまで』慶應義塾大学出版会(印刷中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井下 理 (INOSHITA, Osamu)
慶應義塾大学・総合政策学部・教授
研究者番号: 30129069

(2) 研究分担者

井下 千以子 (INOSHITA, Chiiko)
桜美林大学・心理・教育学系・教授
研究者番号: 60407757

田部井 潤 (TABEL, Jun)
東京国際大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 50267861

柴原 宜幸 (SHIBAHARA, Yoshiyuki)
日本橋学館大学・リベラルアーツ学部・教授

研究者番号: 30327275